

2015春季講演会(東海大)シンポジウム

シンポジウムの主題(全体テーマ名)

日本語	微粒子合成法とその応用最前線
英語(必須)	Synthesizing methods for fine particles and their latest applications

世話人

	氏名	所属	
1	伊藤 昌文	名城大学	
2	朽久保 文嘉	首都大学東京	
3	佐藤 孝紀	室蘭工業大学	

企画の趣旨および内容説明

・企画の趣旨:
微粒子は質量当たりの表面積の比が大きいことや量子効果などから次世代で重要となる燃料電池、二次電池、太陽電池などの電池材料やバイオ試料の蛍光修飾用の蛍光材料を始め多くの分野での応用で重要となってきた。微粒子合成法として化学的な合成法、プラズマを用いた合成法など多種多様な合成法がある。
本シンポジウムでは、これらの合成法のメリットデメリットを明らかとし、相互の知見を利用することで現状の課題の解決法や今後の可能性について議論する。

・企画母体(分科会、支部、研究会等(もしあれば)) :プラズマエレクトロニクス分科会

・トピックス性:
次世代で重要となる燃料電池、二次電池、太陽電池などの電池材料やバイオ試料の蛍光修飾用の蛍光材料を始め多くの分野での応用で重要となってきた。

・過去の実績:
プラズマエレクトロニクス分科会企画のシンポジウムは毎年盛会に開催しているが、微粒子関係のシンポジウムは過去5年間以上開催していない。

・チュートリアル・一般セッションとの関連性:
チュートリアルはプラズマの受動診断を予定しており、本シンポジウムとの関連は薄い。プラズマエレクトロニクスの一般講演にも微粒子関連の発表が見込めるため、時間の許す限り受け入れることができる。

・想定できる参加者のコミュニティー(分科、分野等):
プラズマエレクトロニクス分科会、薄膜・表面物理分科会、結晶工学分科会、シリコンテクノロジー分科会など微粒子を応用するデバイス関連分野